

第6学年 研究だより

単元名

理科 生物どうしの関わり

つかむ



生活経験や既習内容を振り返る

生活経験や、昨年度までの生物に関する学習を振り返ることで、生物同士が関わったり支え合ったりしていることに興味をもつ児童の姿が多く見られました。

そこで、今回の授業では、生物同士にはどのような関わりがあるのか、自分が選んだ4つの生物（ライオン、ワシ、シャチ、ゴリラ）を基にして、食う・食われるという関係に迫る授業を行いました。

自分の考えを整理する



思考ツールを活用して考えを表す

思考ツールの1つである、「ピラミッドチャート」を活用することで、児童の考えがより広がりました。

本来「ピラミッドチャート」は、下から上に使い、考えを整理して主張を明確にする使い方が一般的ですが、今回の単元では、上から下に扱うことで、生物同士の関連付けの手助けとなると考え、選択しました。児童は、自分の今までの生活経験や既習内容を振り返りながら、食う・食われるという関係を、自分なりに表現することができました。

考えを広げ、深める



視点を定めて話し合う

次に、グループで話し合う活動の時間を設定しました。話し合う視点を設けることで、考えを広げ、深められるようにしました。児童は、出た意見を肯定的に捉えたり、共通点や差異点を見いだしたりして、話し合う視点に気を付けながら考えました。

児童は、ただ伝え合うだけでなく、友達が作ったチャートとの関連性について議論したり、疑問に思った点（?カード）を話題にしたりすることで、多様な考えを出し合うことができました。

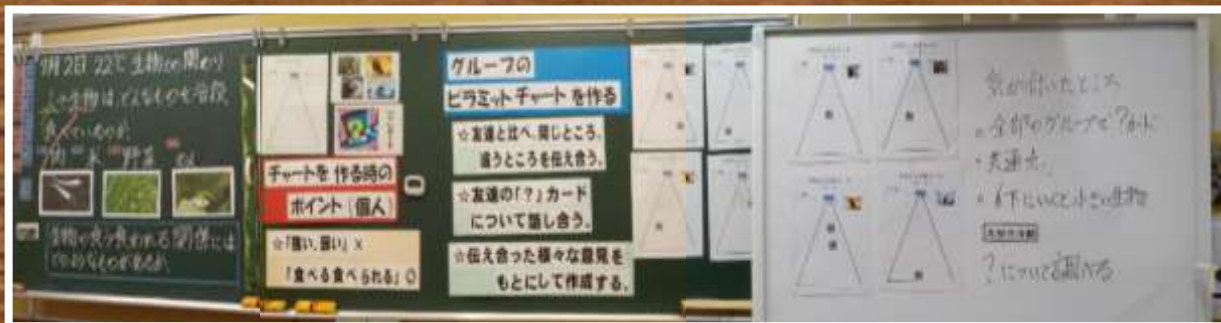
問題を見いだす



全体で比較したり関連付けたりする

グループで話し合ってまとめたチャートを、グループごとに発表しました。自分と同じテーマの生物や、異なる生物についての発表を聞くことで、複数の生物の共通点に気付くことができました。多様な考えに触れたことが、多面的・総合的に考えることの素地となりました。

児童は、疑問に思った点（?カード）に注目したり、チャートの下部（食物連鎖の下位）に何が入るのかに興味をもったりして、次時以降の学習につながる問題を見いだすことができました。



講師の先生より

目白大学 石田 好広先生

- 授業のねらいである、生物同士の関係に関心を持ち、問題解決への意欲をもつという点では、どの児童も、これまでの生活経験や既習内容から、生物同士のつながりについて関心をもって考えることができていました。
- 思考力を伸ばすために、様々な友達の意見を聞いて、考えを広げていました。図を見せ合って話すことや、根拠を基に話すことなどの学び方を身に付けていくことが、更なる思考力向上につながるでしょう。
- 児童が考えた疑問を大切に、今後の実験や学習を通して、生物同士の関わりについての理解を深められるとよいでしょう。